

令和元年度第8回 感染症発生動向調査部会

令和元年11月20日

月番： 加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2019年第40週～第44週・10月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 二類感染症については、結核発症患者は前年同期までの累計と比較し、1割増加した。潜在性結核感染症は横ばいである。70歳未満が60%を占めており、若年者の比率が高かった。20歳未満の報告が5例（発症2例、潜在性結核感染症3例）みられている。
- ・ 五類感染症については、百日咳の報告が42例と多く、累計も前年同期までと比較し増加している。42例中ワクチン接種歴がない小児の報告は、2例のみで、33例は4回のワクチン接種歴がある。
- ・ 麻疹患者が1例報告例あり。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは前々年、前年と比較して増加しており、流行が早めに始まっている。

2 検討すべき課題

- ・ 疑似症サーベイランスの運用について（保健医療課）

3 情報提供すべき事項

なし

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 日本感染症学会提言「～抗インフルエンザ薬の使用について～」
バロキサビル（ゾフルーザ[®]）

12歳未満の小児を対象とした国内第Ⅲ相臨床試験において、バロキサビル投与前後に塩基配列解析が可能であったA型インフルエンザ患者77例中18例（23.4%）にアミノ酸変異が認められました。また、成人及び12歳以上の小児を対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験では、同様にA型インフルエンザ患者370例中36例（9.7%）にアミノ酸変異が認められました。

- (1) 12-19歳および成人：臨床データが乏しい中で、現時点では、推奨/非推奨は決められない。
- (2) 12歳未満の小児：低感受性株の出現頻度が高いことを考慮し、慎重に投与を検討する。
- (3) 免疫不全患者や重症患者では、単独での積極的な投与は推奨しない。

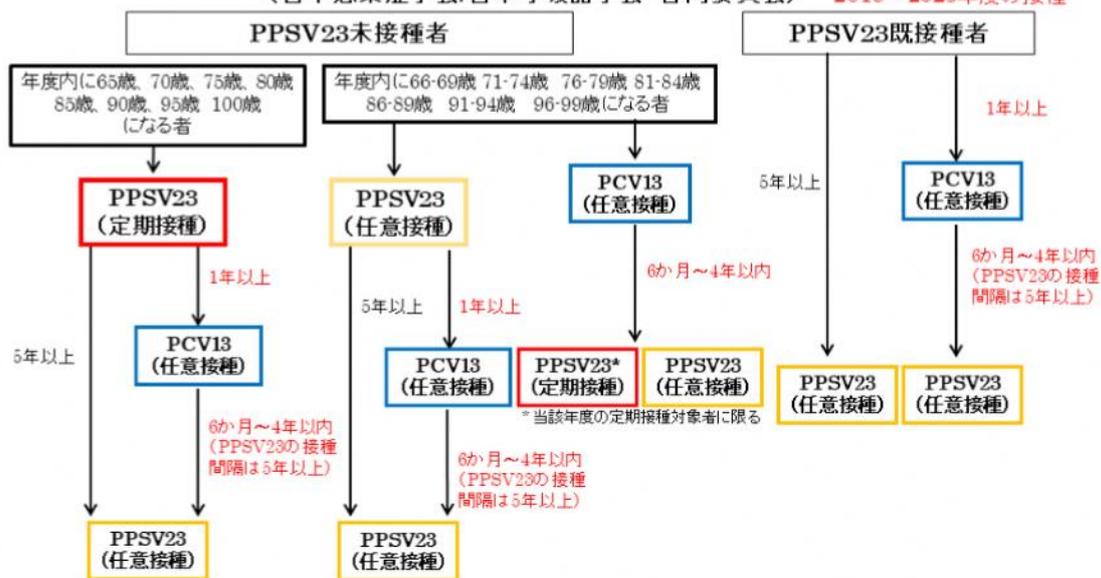
- ・ 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討WG委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会
第3版の「考え方」における見解（2019年10月30日）

2018年度の厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会において、65歳以上の成人に対してPPSV23による定期接種を継続し、2014～2018年度に実施した5年経過措置を引き続き2019～2023年度に実施することを決定した。また、同分科会は65歳以上の成人に対する定期接種としてはPCV13を位置づけない

ことを決定した。一方、2019年6月に開催された米国ACIP会議において、65歳以上の成人に対するPCV13-PPSV23の連続接種は推奨されなかった。また、今回の米国ACIP会議資料にはPCV13-PPSV23の妥当性を示すデータは確認できなかったものの、合同委員会はPCV13-PPSV23連続接種の考え方自体が否定された訳ではないと考える。このような背景から、合同委員会としては第3版の「考え方」において、第2版の「考え方」に引き続き、定期接種対象者がPPSV23の定期接種を受けられるよう接種スケジュールを決定することを推奨する。また、65歳以上の成人に対し、PCV13を接種後にPPSV23接種（定期接種もしくは任意接種）を受ける連続接種スケジュールについても可能な選択肢とする。

図. 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方(2019年10月)

(日本感染症学会/日本呼吸器学会 合同委員会) 2019~2023年度の接種



注意

- #1. 定期接種対象者が、定期接種による PPSV23 の接種を受けられるように接種スケジュールを決定することを推奨する。
- #2. PPSV23 未接種者に対して両ワクチンを接種する場合には、上記 #1 を勘案しつつ、PCV13 → PPSV23 の順番で連続接種することが考えられる。
- #3. PCV13 - PPSV23 の連続接種については海外のデータに基づいており、日本人を対象とした有効性、安全性の検討はなされていない。
- #4. 定期接種は2019年4月~2024年3月までの経過措置に準ずる。
- #5. 2019年度内は100歳以上も定期接種の対象に含まれる。

<検討結果>